

平成22年度第1回京都市図書館協議会摘録

○ 日 時 平成22年11月29日(月) 15時～17時20分

○ 場 所 京都市生涯学習総合センター 3階 第3研修室A

○ 出席委員 青島 廣高 委員
五島 邦治 委員
齋藤 みゆき 委員
高越 恵美子 委員
千葉 和子 委員
直江 秀樹 委員
丸毛 静雄 委員
渡辺 昇治 委員 (五十音順) [10名中8名出席]

○ 傍聴者 なし

1 開会

中央図書館長の挨拶

2 報告事項

事務局から、次の4項目について報告

(1) 前回協議会における課題について

<前回の委員提案事項①>

提案の内容： 移動図書館の巡回情報を巡回地域の回覧板を使って周知してはどうか。

取組の説明： 水尾地域で既存の基地の中間点に新たな基地を増設した際に、移動図書館のお知らせについて地域全戸へ周知を図った。

市民しんぶんには全市版と地域版があり、移動図書館の巡回については重要な情報として従来から地域版に載せていたが、紙面の関係で西京区版には掲載されていなかった。しかし今年度、図書館から働きかけて、西京区内にある5箇所の基地情報についても載せてもらうことになり、移動図書館の情報が関係する全ての地域版に掲載され、地元の方にとって重要な移動図書館の情報を見ていただけるよう改善できた。

前回御提案があった回覧板による周知については、回覧物の配送を運送業者に依頼しなければならず、移動図書館の基地の対象世帯数を考えると経費の負担が大きいので、今後、学校の児童を通じて周知することを1つの方法として考えていきたい。

<前回の委員提案事項②>

提案の内容： パンフレット「お役に立ちます」について

- ・年代別、階層別に「こんな本がありますよ」という案内をするのはどうか。
- ・「新聞や雑誌もありますよ」など“図書館ってどんなところ？”という視点から、図書館でゆっくり本が読めるということをアピールする。
- ・かつての文学青年、文学少女である年配の方に絞って、もう一度生涯学習の一環としてアピールしてはどうか。
- ・パンフレットにビジネスマン向けの情報を入れて企業に配ると企業が動くのではないか。
- ・シリーズになればおもしろい。

取組の説明： パンフレット「いつだって図書館」は生活の役に立つという観点で、図書館はこんなところだと感覚的に導き、「あなたにピッタリな本が図書館に必ずあるので一度図書館に足を運んでください」という誘いをアピールするという思いで作った。

また、「京都市図書館からのお知らせ」を様々なテーマで配布している。例えば南座の顔見世興行では、歌舞伎で楽しんでいただくのが主旨だが、本でも楽しんでいただくということをアピールするために配布した。京都アスニーで毎週金曜日に開催されているゴールデンエイジアアカデミーでは、講座のテーマに関連した図書を紹介した。近代美術館で展示されている上村松園展では、美術館や博物館で展示されるテーマに関連する本は必ず図書館にあるので、本でも勉強し、楽しんでいただくために配布した。市の選挙管理委員会がウイングス京都で開催した政治・文化セミナーでは、お知らせの資料を配布すると、本でも学べるということで、講座に来た方は大変満足度が高いと喜んでいただいた。橘大学の「京都を流れる疏水と地域の関わり」のセミナーがウイングス京都で開催され、図書館は疏水に関する資料もあるので、大学のセミナーも絶好のチャンスと捉え案内をさせていただいた。中京区役所の人権講座の取組で、精神科医の名越康文先生の講座がウイングス京都で開催され、お知らせを配布させていただいた。

<前回の委員提案事項③>

提案の内容： 大人の読み聞かせを行うなど大人の方にも絵本を勧めていただきたい。また、高校生や大学生を呼び込む仕組みにも知恵を働かせてはどうか。

取組の説明： 中央図書館で大人を対象とした「お話の会」を実施して、大変好評だった。今後、グリム童話等のテーマ展示や、大人が楽しめる読み物や絵本の情報を提供する取組を検討していきたい。

<前回の委員提案事項④>

提案の内容： 国民読書年のキャッチフレーズ、「じゃあ、読もう」はどうしたらそういう気持ちになるか。例えば、“マイしおり”や“マイブックカバー”など読書用具を作ってみると興味が持てて、本を読もうという気持ちになるのではない

か。

取組の説明： 大人のおたのしみ会を実施し、実際にマイしおりやマイブックカバーを作る取組をした。12月15日にはクリスマスカードを作る会も実施する。内容的にはこの時季にピッタリな事業を企画している。

<前回の委員提案事項⑤>

提案の内容： 子ども読書の日記念事業のキャッチコピーの「いっしょに読むととっても楽しい」はすばらしい。この趣旨をもっと事業の内容に盛り込んでほしい。「いっしょに”の中に司書も入ってほしい。

取組の説明： 「いっしょに読むととっても楽しい」というキャッチコピーは、京都市図書館の職員がみんな一つの気持ちで子ども読書の記念事業に取り組むというところから各図書館職員から募集し、多くの応募の中から、親子で楽しめる読書ということでこのキャッチコピーを選んだ。

今回講師に選んだ方は富安陽子先生で、特に小学生に大変人気のある作家である。いつもは大人向けの講演会だが、子どもにも楽しんでもらえるような内容ということで、講師自身の生い立ちなどを踏まえ、子どもまで楽しめる講演会をしていただいた。多くの子どもたちが参加し、最後まで集中して聞いていた。質問コーナーでは多数の子どもたちが質問し、サイン会も多くの子供たちが並んだ。来年も同じ方向で考えて実施していきたい。

(2) 各館の特色ある取組について

中央図書館では、大人を対象とした事業として怪談話をテーマにしたおはなしの会を実施した。このような語りの会を新たな分野として進めていきたい。また、古典の日のブックトークでは、京都アスニーの平安京創生館という臨場感溢れる場で京都のむかし話を語った。さらに、京都府立植物園で木を1年かけて観察するという取組があり、その関連でコラボレーションの企画として、植物園でブックトークをさせていただく。

右京中央図書館では、10代のお勧めの本を葉っぱに書いて紹介してもらおう「ティーンズみんなの木」という、本離れの10代を引き付ける取組をしている。また、読み聞かせを皆で学ぼうという趣旨で毎月1回、読み聞かせ連続講座を開催し、地域ボランティアの力を高め、連携をとっている。

伏見中央図書館では、地域の歴史や特色を掘り起こすという目的で、時代装飾の移り変わりを学ぶ講座を、隣の伏見区役所で開催した。また、近鉄電車、京阪電車が今年100周年の年にあたるので、伏見酒蔵講演会「今は昔 伏見の町の鉄道史」を開催した。

醍醐中央図書館では、動物園に協力してもらい図書館に獣医師が来てお話をさせていただき、関連する図書も展示した。

左京図書館では、本離れの10代の引き付けのため、中学校の図書委員が本を紹介している模造紙を、学校だけでなく左京図書館に掲示して同じ世代にもアピールし、本離れに対する取組を行った。

岩倉図書館では、地域事情で外国人の方が多くこともあり、英語絵本の読み聞かせを行

っている。また、地元の保育士さんからアドバイスを受ける「赤ちゃんタイム」も開催し、赤ちゃんに本との結びつきを深めたいということで、地域住民の方と協働している取組である。

東山図書館では、市民しんぶんの区版にアピールを載せさせていただいた。東山地域の関連する場所と、図書を紹介することによって地元の方に興味を持っていただけたと思う。

久世ふれあいセンター図書館では、秋の読書週間のイベントでオリジナル音楽物語「鶴の恩返し」を開催した。館長が元音楽高校の校長先生で、自ら物語を書きおろし、演奏は音楽を専攻する学生、朗読は司書が行い、会場は感動のるつぽになり参加者に大変喜んでいただいた。周辺に書店がほとんどなく、久世ふれあいセンター図書館が文化的な情報を発信する役割を担う施設として、今後もこの様な取組を続けていきたい。

向島は巨椋池を干拓した所で、巨椋池干拓前後の写真を貼ると、地元の方から反響もあり、「地元の情報を知りたい」と大変興味を持っていただいた。地元の方からの資料提供の話もあり、図書館としては、地域の情報や郷土資料を集め、それをまた図書館資料として提供していく役割を果たすという良い循環を生んだ成功事例である。

久我のもり図書館では、「久我の杜の暮らしと川」についての資料展示を行った。久我のもり図書館の近くを流れている西羽束師川はメダカの生息地として知られており、館内に熱帯魚も飼っていることから、魚をモチーフにした図書館のキャラクターを職員がデザインし、愛称を募集した。158件の応募があり、久我の杜の「コガ」と魚の「トト」を合わせて「コガト」の愛称で親しんでいただいている。

全館に共通して、「京図ものがたり」で図書館紹介を地域との関わりで掲載するようにしている。23号では岩倉図書館の「赤ちゃんタイム」と「英語絵本の読み聞かせ」を紹介、24号では向島図書館について紹介した。

(3) 市会図書室との連携による市会活動支援について

取組のねらいは図書館機能を発揮して使命を果たすことである。図書館法第3条の4には、「他の図書館、国立国会図書館、地方公共団体の議会に附置する図書室及び学校に付属する図書又は図書室と緊密に連絡し、協力し、図書館資料の相互貸借を行うこと」とあり、市会活動を支援するために市会図書室への貸出しを行っている。地域や住民の課題解決に向けた市会議員の調査研究活動を支援する図書館として、図書館の持っている情報を活用していただけたらありがたい。

具体的には市会図書室への団体貸出しの手法を用い、貸出点数は200冊以内、貸出期間は31日間、市会図書室の方から各議員の方には、1人10冊以内、2週間という形でご利用いただく。さらに、議員からレファレンスの依頼があれば、京都大百科事典的機能を持つ右京中央図書館が対応することとしている。

今年の9月13日から取組を始めたが、図書館から市会図書室へ資料を提供し、秋の読書週間で展示するなど、市会図書室側でも議員の方々に利用していただけるようアピールしている。

(4) 報告事項に関する質疑応答

意見： 私たちが提案したことが活かされて、図書館が活発化してきたと感じる。

子ども読書の日での記念事業での富安先生の講演は、子どもが楽しめる講演で、子どもが主体として参加できる機会、作家と触れ合う時間がつくれたのではないかと思う。子どもに人気のある作家を呼んでいただいて、話を聞き、質問させてもらうのはとても良いことだと思う。

学校の取組で、本に興味を持たせるような活動はしていると思うが、子どもに活字から離れないように、作家と触れ合える時間を市の図書館として身近に取り組んでいただけるのはありがたい。子どもも参加できる取組をこれからも企画していただけたらありがたい。

回答： 子ども読書の日記念事業では、幼い子どもさんがおられる場合、周りへの迷惑を心配される方のためにこれまでは託児という形で対応していたが、今回はサテライト会場を設けた。子どもと一緒に、別室で、リアルタイムで会場の状況を映像で楽しむことができる部屋を用意した。今回の新しい取組で、10組ほど利用していただいた。

意見： 街中でも、映画館でのマザーズデイ等、子どもと一緒にというサービスが多い。民間が行っているサービスをうまく転換して使っていただきたい。

意見： 「いつだって図書館」は良いパンフレットで、色々な場面で図書館が役立つ施設であることがよく分かる。それぞれの人にとって良い気づきになる。

各館の取組は、子ども、学生、大人向けもあり、バラエティーに富んで充実されていてすばらしい。ただ、これらの事業の案内が各館ごとの案内になってしまっていて、図書館のホームページのトップでわからない。私はよくホームページで情報を得るので、トップページの「イベント」というボタンを押せば各館のイベントが一覧できるようにするなど工夫すれば、参加者も多くなり、もっと図書館が身近になるのではと思う。

意見： 地域ごとではなく世代ごとに幅広くお知らせするには、ホームページのトップページに情報を載せることが効果的な広報の方法ではないかと思う。

質問： 市会図書室の資料はどのようなものがあるのか。一般的なものはあるのか。

回答： 行政資料や法律などの本が充実しており、約2万冊の本がある。

質問： 市議員は市会図書室で様々な資料を使われていると思うが、もっと図書館からもこんな本があるのでご利用くださいと働きかける必要があるのではないかと思う。市会図書室に司書職員はいるのか。

回答： 嘱託の司書が1人いる。

意見： 子どもに、「本を読みなさい、こんな良い本がある」と言葉で言うよりも、人が話をしたり、本を読み聞かせたりする方が子どもの心に入っていくのではないかと思う。図書館は本を借りるだけではなく、色々な働きかけをしているということをもっと広げていただきたい。地域の図書館の方が学校に来て話をしていただく等、学校からの要請だけではなく、図書館からこんな催しがあるからこんな本はどうかと言っただくなど、地域の図書館と学校が連携していけるようなことがあれば嬉しい。

意見： 各館の特色ある取組は、それぞれすばらしい取組をしていただいている。学校で京都の昔についてブックトークをしていて、各学校の図書館に昔話の本が何冊かあるが、どこかで一括してその本を保管していただき、ここに行けば地域の昔話の本があるというようにしていただくとありがたい。

琵琶湖疏水については小学校4年生で勉強する。それに関する資料が図書館にあるということ図書館から学校にアピールしていただいたら、学校側は喜んで借りると思う。小学校では総合的な学習の時間があり、その時間に、「久我のもりの暮らしと川」、「巨椋池の干拓」など地域と関連した学習をしている。さらに、それらの学習を発展的に教科と結びつけている学校もあり、ぜひ各館での取組を各学校に知らせてもらえたら、もっと図書館資料を活用させていただけると思う。

意見： 中学校のPTAで、読書活動しようという取組がある。右京中央図書館の「ティーンズみんなの木」など、地元の中学生との連携を図っていただき、活動しているのはありがたいので、これからも続けていただきたい。

今、中学生は本が好きな子とほとんど本を読まない子で二極化しているので、読書に親しんでほしいという活動を進めているが、10代向けの取組をもっとしていただけたらと思う。

今の小・中学生は携帯電話やインターネットなど目から入る情報に頼りがちで、インターネットですぐに調べられるが、「いつだって図書館」のように、図書館に行けば本があると言っていただけのはありがたい。

図書部の生徒だけが図書館を利用し、他の生徒は利用しないのもったいない。利用していない生徒たちにアドバイスしていただけるような関係づくりをしていただけたらありがたい。

3 協議事項

(1) 図書館に期待するもの

意見： 他府県では図書館にチラシを置いてもらえると言っているが、京都市の図書館は京都市関係のものぐらいしか置いてもらえない。京都市図書館からのお知らせのチラシを南座へ持って行っているように、逆に図書館でもこれはと思うものに関しては、民間が行っている事業のチラシも置いていただくよう門戸を広げていただきたい。図書館は情報交換の場であると考えたら、図書館へ行くと情報が得られるという視点で考えていただけたらうれしい。

右京中央図書館へ行くと地域の学校のお便りが貼られていた。図書館の近くにこんな学校がある、年配の方向けの施設もあるなど、アピールの場を提供していただきたい。周りに何があるか把握しているのが図書館の良いところではないか。

回答： 館内でのポスターやチラシの掲示について、中央図書館の状況を説明すると、まず考え方としては、京都市や京都市教育委員会の主催又は共催で行っている事業に関するものを原則としている。毎日のように、府や国、関連団体から多くのポスターやチラシが送られてくるが、館内の掲示スペースの状況を見ていただければお分かりいた

だけるとおり、掲示するものを今の考え方で選別してちょうど適正規模になっているのが現状である。

ただ、御意見を伺う中で一つ思ったのは、今私たちは、更に多くの方に図書館を知っていただき、地域に役立つ図書館の機能を発揮するため、植物園や美術館、博物館など他の生涯学習関連施設とのコラボレーションに積極的に取り組んでおり、そうした取組の中で築く各施設との信頼関係のもとで、お互いの情報提供についても連携を図ることはできると思うので、検討したい。

意見： 図書館に行くときと京都市のすべてがわかるという案内をしていただければと思う。図書館に寄せられる膨大な情報の中で選択するのは難しいかもしれないが、頼りになる図書館となっていたらありがたい。

意見： 図書館が持つ機能として、例えば環境、歴史、文化など、市民活動に関する情報があるので、地域によっては図書館が情報の拠点になることがある。自分たちが借りたい本があり、図書館に行けば気軽に借りられて、それについてアドバイスをもらうという基本的な機能が一番大事であり、情報を分かりやすく提供するのは図書館の基本的な役割だと思う。コラボレーションでは学校図書館との連携をもっとできるのではないかと思う。

図書館同士の連携で、実際に担当している方たちが問題とまっていることや、こうしたら良いとまっていることを話し合える場ができれば良い。

京都市中央図書館の30周年に向けて、図書館好きの方の「友の会」のようなものがあればおもしろい。

意見： 「京都市図書館からのお知らせ」のチラシを配るのは良いことだと思う。図書館に行かれたことがない方もいると思うので、こんなことがあるなら図書館に行ってみようと思うきっかけになる。地道な取組だが続けてほしい。

「いつだって図書館」は良い資料なのに、市民の方にはよく知られてないと思うので、学校や地域などに効率的に情報発信していただきたい。

私が京都市図書館のホームページで使うのは、カレンダーと蔵書検索の2つ。行事の案内や各館の特集など、何か楽しいことが載っているかも知れないと思わせるようなホームページの仕掛けをつくっていただきたい。

質問： 左京図書館の「けやき」のような友の会の取組が他の館で行われていないのはなぜか。図書館側から友の会を発足しようと思わないのはなぜか。

回答： 図書館活動の裾野を広げていけるような方たちとの協力関係を築いておくのは大事だと思う。

意見： 他の地方の人は本を「借りに行く」というのがある。子どもたちについては図書館への出入りが多くなってきているけれども、京都の年齢の高い人は特に本を「買う」人が多いと思う。市議員の方も知りたい資料に関しては自分たちで求めておられるのではないかと。市会図書室を動かそうとするなら逆にこちらから提供するのかもしれないかと思う。例えば、今の若者の関心はこういうところにあるというものを市会図書室の方に提案するのはどうか。

意見： 図書館を知らない人をどう取り込むかをコラボレーションと合わせて考えた時に、プロバスケットボールの京都ハンナリーズや女子プロ野球の京都アストドリームスの選手が商店街で歩いているだけで、子どもたちが寄って行く姿を見かけたことがある。京都にはスポーツ選手や有名な方が多くいる。そのような子どもの興味を引く魅力を持った大人の方も、必ず本を読んできた体験を持っていると思うので、そのような話を引き出して、「〇〇さんの本の思い出」という形で子どもたちに伝えられるようなイベントを実施したり、京図ものがたりに記事を載せたりするなどして、子どもたちの興味を引き付けるというのも手法の1つだと思う。

意見： 学校の図書室が活かしきれていない。地域に学校図書館を開放すると、もっと図書館に来る人が増えていくのではないかな。図書館はすばらしい財産なので使わない手はない。図書館の司書の方に学校に来ていただき、魅力ある図書館づくりの手伝いをさせていただくと、地域での小さな図書館として有効に使われると思う。

意見： 他府県では、図書館に学校の便りを置いていて、地域の方が取って帰り、その学校のことをよく知っている。良くないことを考えて図書館に行く人はいないと思うが、「自殺を考える前に図書館に行こう」というのがあり、傷心の傷を癒やしたり、本を読まなくてもそこにいて癒やされたりという空間がある。その静かな空間と図書館に人が多く出入りして賑やかになることのバランスをどう考えればいいかと思う。

中学生位の子どもに本を読むように言うが、それよりも大人が本を読み、それについて思ったことを子どもに話をするのは大事だと思う。また、学校の便りを銀行や多くの人がいるところに掲示し、中学生だけでなく大人も対象に、必要な人に必要な情報を提供するというのも大事だと思う。中学生ぐらいの子には生の話を、大人には見て読んで分かる情報を発信するという使い分け方もあるのではないかなと思う。

質問： リクエストがあった図書の購入については、どんな手順で決まっているのか。時間はどのぐらいかかるか。

回答： 図書館に設置しているリクエスト用紙に書いていただき、中央図書館では、一定期間分のリクエストを集めて、職員でその本が古くて現在は発行されていないものなど情報を確認して購入するかしないかを決めて発注する。納品されるまでに装備をして、本のデータを付けて、利用者にお渡しできるまでに平均1箇月程度かかる。本によってなかなか購入できないものや絶版になっているものもあり、そういうものは他の自治体に検索し、相互貸借という形で提供しているが、郵送料がかかる。

質問： CD・DVDのリクエストは受け付けないのか。

回答： 特に映像資料については著作権の問題もあるので、リクエストを受け付けない今の取扱いを維持していきたい。

質問： 「ベストセラーなどの本を寄贈してください」というポスターがあるが、寄贈の状況はどんな感じか。

回答： 人気作家は予約が1,000件程入っている本もある。図書館で人気のある作家の本を多く買えば要求に応えられるが、その利用が済んだ後の蔵書構成を考えるとその本ばかりを買うわけにいかない。皆様が読まれた後に寄贈していただくと、その本

を装備して借りていただける。図書費も限られているので工夫している。

意見： 寄贈は良い制度なので、例えば何冊か寄贈したら1冊優先的に貸してもらえるなど特典みたいなことを考えてアピールしてはどうか。

意見： 図書館の閉館時間をできればそろえて欲しい。

回答： 中央図書館は夜8時半まで開館している。何時まで開館するのが良いのかりサーチし、検討したことがある。地域の図書館でも何時まで開館したら良いのか、各地域の実態があるので、ご不便をおかけする場合もあるかもしれないが、地域に合った時間を設定している。時間を揃えるよりも、地域に合った時間にする方が効率的だと考えている。

意見： 中央図書館では8時半まで開館していても、児童室が5時で閉まっている。週に1回だけでも良いので児童コーナーを開けていただきたい。

意見： 司書の専門性を活かすということでは、大人は子どもにどんな本を与えて良いかわからない面があるので、ブックトークを学校ですていただけたらありがたい。